

テモテへの手紙 二 1章1節～8節 キリスト・イエスによって与えられる命の約束を宣べ伝えるために、神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、愛する子テモテへ。父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように。

わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし、先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝しています。わたしは、あなたの涙を忘れることができず、ぜひあなたに会って、喜びで満たされたいと願っています。そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。そういうわけで、わたしが手を置いたことによってあなたに与えられている神の賜物を、再び燃えさせたように勧めます。神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。

Ⅱテモテの著者は、「キリスト・イエスによって与えられる命の約束を宣べ伝えるために、神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロ」と、Ⅰテモテと同じである。パウロを紹介する言葉を「命の約束を宣べ伝える」使徒と書き、本文においても「命の約束」が強調されている。宛先は「愛する子テモテ」で、殉教死を見据えたパウロから愛弟子テモテへの「遺言」の手紙として書かれている。名を借りたパウロと宛先のテモテは共に、既に世を去っている。祝福の言葉は、「父である神とわたしたちの主キリスト・イエスからの恵み、憐れみ、そして平和があるように」と、Ⅰテモテと全く同文である。

「著者」は、昼も夜も祈りの中でテモテを思い起こし、先祖に倣い清い良心をもって仕えている神に、感謝していると言う。あなたと別れた時の涙を忘れることができず、ぜひ会って、喜びで満たされたいと願っている。そして、テモテの純真な信仰を思い起こしている。「その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。」祖母と母はユダヤ人であったが、キリスト教に改宗し、熱心な信仰生活をしていた。母エウニケはギリシア人と結婚していた。

「著者」はテモテの祖母と母を知っていて、彼女たちの純真な信仰を継承したテモテを見込んだパウロが、宣教旅行に同伴させ、愛弟子にしたのである。

パウロがテモテに手を置き、伝道者として「按手」した時に、与えられた賜物を再び燃え立たせるように勧めている。「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。」パウロは、ローマ書1章16節で、「わたしは福音を恥としない」と書いている。キリストの十字架と復活の福音は、ある者たちからは恥、つまりきと見なされ、迫害、投獄されることもあった。しかし、神は力と愛と思慮分別の霊を私たちにくださったのである。「著者」は、主イエスを証しすることも、主イエスの囚人であることをも恥じずに、「神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください」と諭している。